

# 第67回 定時株主総会

# DESCENTE

2024年6月13日  
株式会社デサント

# 監査役会の報告

(招集ご通知 48頁～52頁参照)

# 報告事項 1

## 第67期事業報告、連結計算書類及び 計算書類の内容報告の件

(招集ご通知 20頁～47頁参照)

# 1. 企業集団の現況に関する事項

## (1) 事業の経過及びその成果

(招集ご通知20頁～22頁参照)

# (1) 事業の経過及びその成果

DESCENTE

2021年度～2023年度期間の中期経営計画(「D-Summit 2023」)は順調に推移。結果として2023年度は過去最高益となる経常利益157億円・純利益120億円となり、総配当額も過去最高を更新

D-Summit 2021

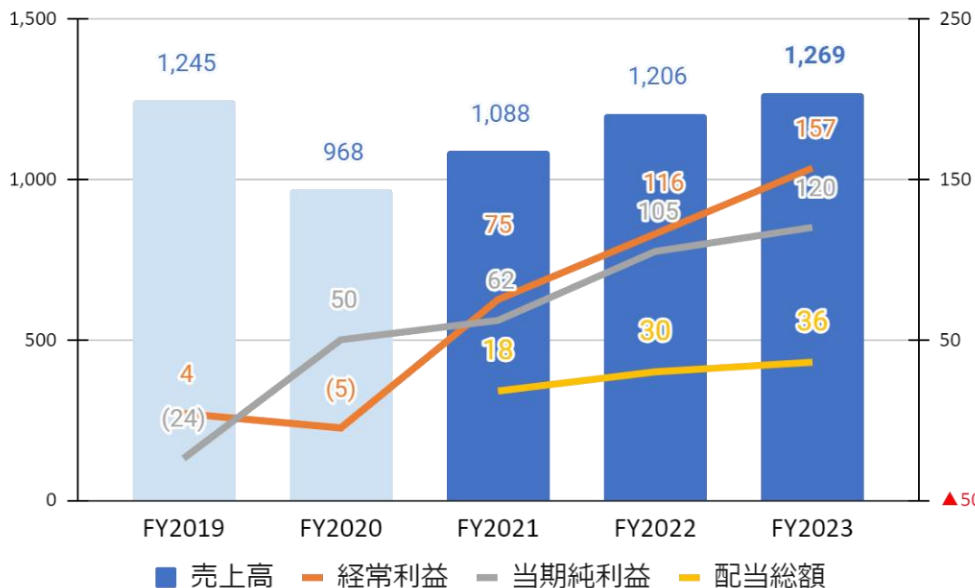
D-Summit 2023

【D-Summit 2023】重点戦略レビュー

売上高(億円)

連結売上高・当期純利益の推移

各段階利益・配当総額(億円)



- ◎ **日本・韓国・中国の地域別戦略の実行**  
各セグメントでFY2023実態利益の目標値を達成
- ◎ **日本事業の収益改善**  
DTCは目標未達ながら伸長、加えて販売ロス低減により収益性向上
- ◎ **モノづくりの強化**  
水沢ダウンに次ぐ主力商品となったシェルジャケットの成長や韓国で開発したゴルフシューズを各国で展開開始等、商品構成の幅が強化

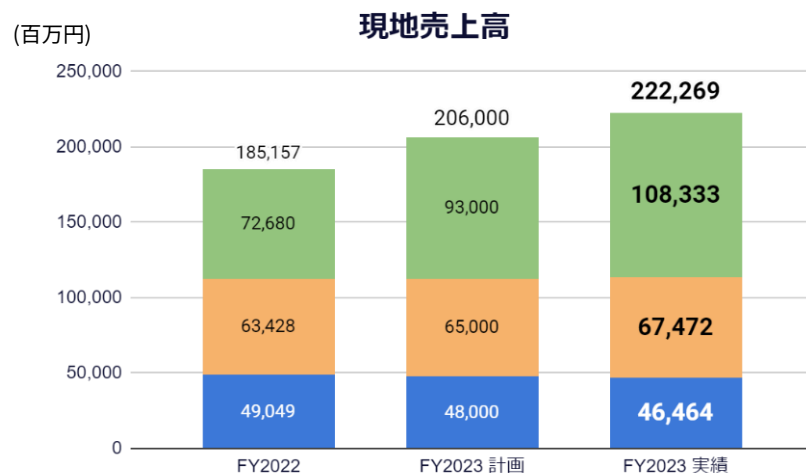


利益拡大に伴い3年連続の増配、  
直近2年は過去最高額の配当を達成

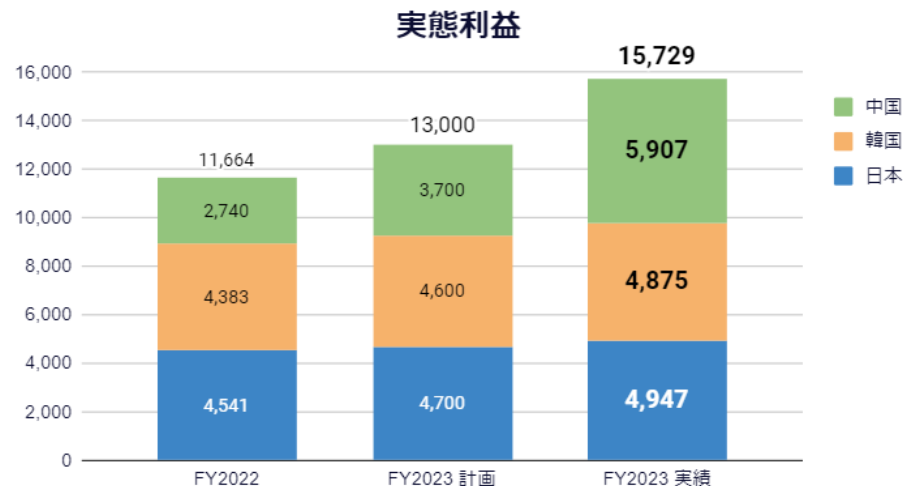
# (1) 事業の経過及びその成果

DESCENTE

- 日本** ・ 現地売上ベースは目標未達も、DTC事業を中心とする収益性改善により実態利益は計画値達成
- 韓国** ・ 店舗リニューアル等によるプロパー販売強化により売上・利益ベース共に計画値達成
- 中国** ・ 持分法適用関連会社を中心にグループへの収益貢献度が急拡大



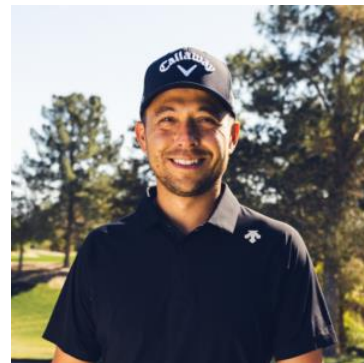
各エリアにおける連結子会社および持分法適用関連会社の売上を簡易計算



各エリアにおける連結子会社の営業損益および持分法投資損益に調整額を按分し簡易計算

# (1) 事業の経過及びその成果 - ブランディング(グローバル) - DESCENTE

『デサント』：プレミアムスポーツブランドとして明確化、高付加価値・高価格商材やトップアスリートとの契約等、地位の確立に向けアセットを拡充



23年春夏より『デサント』の商品ラインナップを見直し、高機能なプレミアム商材に特化。『ムーブスポーツ』は切り離し、価格帯を明確化

23年秋冬より、高付加価値商材「PRO」シリーズを展開開始

全米ゴルフ選手権優勝のザンダー・シャウフェレ選手と契約



# (1) 事業の経過及びその成果 - ブランディング(日本) -

DESCENTE

『アリーナ』：競泳市場におけるの地位を確固たるものとすべく開催される世界大会に向けたマーケティングを実施

『マンシングウェア』：ブランドイメージを刷新すべく新アンバサダーと契約を締結



23年8月にトップアスリート向けの  
新モデルを発表



本田圭佑氏(左)、永山瑛太氏(右)と  
アンバサダー契約を締結



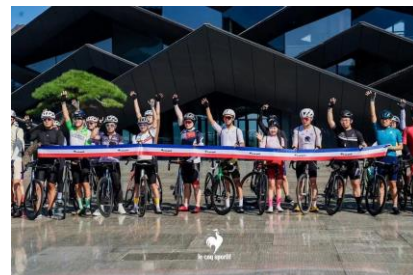
# (1) 事業の経過及びその成果 - ブランディング(韓国・中国) - DESCENTE

『アンブロ』：韓国での更なる成長に向け、ブランドの原点であるフットボールのイメージを強め新規顧客獲得を図る

『ルコックスポルティフ』：中国でリブランディング後の新商品展開が24春夏よりスタート



従来のストリートイメージに  
フットボールの要素を追加



サイクリング・テニスをコアに  
リブランディングを実施



# (1) 事業の経過及びその成果 - ブランディング(契約選手等) - DESCENTE

『デサント』：日本ゴルフナショナルチームへ「富嶽三十六景」をデザインに取り入れたウェアを提供の他、英国トライアスロンチーム等、海外代表チーム・選手にもウェアを提供

『アリーナ』：レース用水着から練習用水着、バックパックを含む「ARENA FIREFLOW」コレクションを競泳日本代表チームにサプライ



左:日本ゴルフナショナルチームへの提供ウェア  
右:英国トライアスロンチームの着用イメージ



各水着・アイテムを競争心・集中力を高めるイメージのデザインで統一

# 1. 企業集団の現況に関する事項

- (3) 設備投資の状況
- (4) 直前3事業年度の財産及び損益の状況
- (5) 主要な事業内容
- (6) 企業集団の主要拠点等
- (7) 企業集団及び当社の従業員の状況
- (8) 重要な子会社の状況
- (9) 主要な借入先及び借入額

(招集ご通知 25頁～28頁参照)

- 2．株式に関する事項
- 3．会社役員に関する事項
- 4．会計監査人に関する事項
- 5．業務の適正を確保するための体制等の  
整備についての決議の内容の概要
- 6．業務の適正を確保するための体制等の  
運用状況の概要
- 7．剰余金の配当などの決定に関する方針

(招集ご通知 29頁～41頁参照)

貸借対照表  
損益計算書  
株主資本等変動計算書  
(招集ご通知 42頁～47頁参照)

# 連結貸借対照表

| (百万円)         | FY2022         | FY2023         | 前期末比増減         |
|---------------|----------------|----------------|----------------|
| <b>流動資産</b>   | <b>82,505</b>  | <b>87,159</b>  | <b>+4,653</b>  |
| 現金及び預金        | 41,412         | 42,660         | +1,247         |
| 棚卸資産          | 21,580         | 23,283         | +1,702         |
| その他           | 19,513         | 21,216         | +1,704         |
| <b>固定資産</b>   | <b>51,057</b>  | <b>63,145</b>  | <b>+12,087</b> |
| 有形固定資産        | 24,107         | 26,279         | +2,172         |
| 無形固定資産        | 5,008          | 5,929          | +921           |
| その他           | 21,941         | 30,935         | +8,994         |
| <b>流動負債</b>   | <b>25,944</b>  | <b>26,531</b>  | <b>+587</b>    |
| <b>固定負債</b>   | <b>7,318</b>   | <b>10,039</b>  | <b>+2,721</b>  |
| <b>純資産</b>    | <b>100,300</b> | <b>113,733</b> | <b>+13,432</b> |
| <b>総資産</b>    | <b>133,562</b> | <b>150,304</b> | <b>+16,741</b> |
| <b>ROE*</b>   | 11.3%          | <b>11.3%</b>   | +0.0pt         |
| <b>ROA*</b>   | 8.4%           | <b>8.5%</b>    | +0.0pt         |
| <b>自己資本比率</b> | 74.6%          | <b>75.3%</b>   | +0.7pt         |

## 【流動資産】

為替影響に伴い現金及び預金・棚卸資産等が増加

(参考)セグメント別棚卸資産増減の内訳(前期末比)

日本：+472百万円

韓国：+436百万円(内、為替影響+503百万円)

中国：+795百万円(内、為替影響+199百万円)

## 【固定資産】

その他に含まれる投資有価証券が増加

## 【負債】

長期借入金及びリース債務が増加

## 【純資産】

利益剰余金及び為替換算調整勘定の増額に伴い増加

## 【ROE / ROA\*】

ROEは2桁水準、ROAは8%台をキープ

\*ROEの計算方法 (ROAも本計算式に準拠)  

$$= (\text{当期純利益}) \div ((\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本}) \div 2)$$

連結損益計算書

| (百万円)               | FY2022  | FY2023  | 増減     | FY2023<br>計画 | 計画比    |
|---------------------|---------|---------|--------|--------------|--------|
| 売上高                 | 120,614 | 126,989 | +6,375 | 127,000      | 100.0% |
| 売上総利益               | 69,188  | 75,554  | +6,366 |              |        |
| 販管費                 | 61,395  | 66,813  | +5,418 |              |        |
| 営業利益                | 7,793   | 8,740   | +947   | 8,500        | 102.8% |
| 営業外収益               | 4,126   | 7,532   |        |              |        |
| 営業外費用               | 254     | 542     |        |              |        |
| 経常利益                | 11,664  | 15,729  | +4,065 | 13,000       | 121.0% |
| 特別利益                | 2,132   | 112     |        |              |        |
| 特別損失                | 825     | 506     |        |              |        |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益 | 10,550  | 12,014  | +1,464 | 11,000       | 109.2% |
| 売上高総利益率             | 57.4%   | 59.5%   | +2.1pt |              |        |
| 営業利益率               | 6.5%    | 6.9%    | +0.4pt | 6.7%         |        |
| 純利益率                | 8.75%   | 9.46%   | +0.7pt | 8.7%         |        |

【売上高】  
NLCS※1の連結業績への取り込みを含め、各セグメントにおけるアスレチックウェアカテゴリーの増収がゴルフブームの反動をカバーし増収（内、為替影響 韓国+約33億円、中国+約1億円）

【売上総利益】  
日本におけるDTC事業の伸長、韓国におけるプロパー販売強化、NLCSの連結業績への取り込み等により売上高総利益率は過去最高となる+2.1ptの59.5%

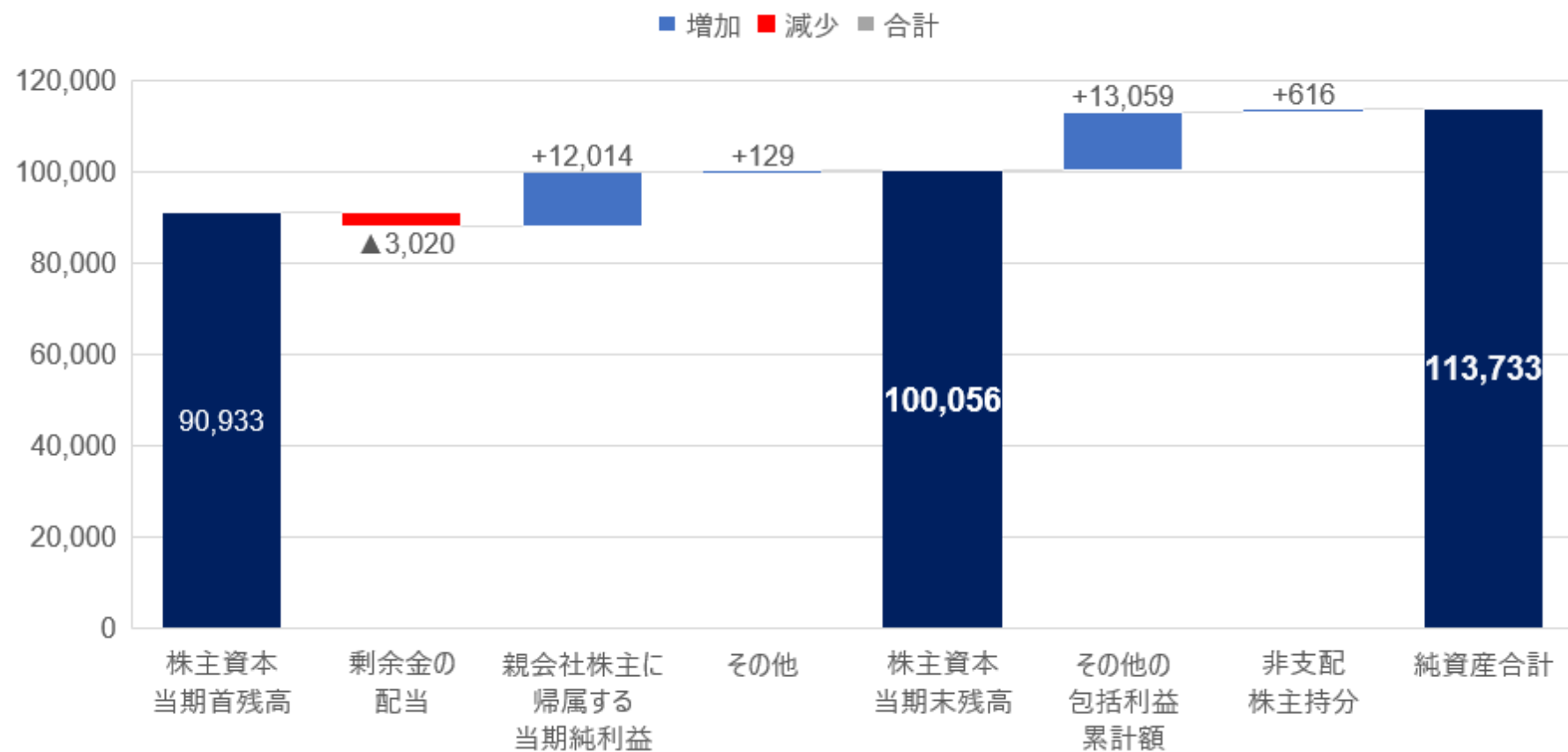
【営業利益】  
売上総利益の増益が販管費の増額を上回り増益

【経常利益】  
DCH※2等の業績伸長により増益、過去最高益を更新

【親会社株主に帰属する当期純利益】  
前年度におけるNLCSの連結子会社化に伴う特別利益の反動があるも、経常利益の増益が吸収し、過去最高益を更新

※1 LE COQ SPORTIF (NINGBO) CO., LTD.  
※2 DESCENTE CHINA HOLDING LTD.







# 1．企業集団の現況に関する事項

## （2）企業集団の対処すべき課題 （招集ご通知 23頁～24頁参照）

### 新中期経営計画“D-Summit 2026”の重点戦略

#### 成長戦略



1. 日・韓・中エリア別戦略  
～ブランディングの推進～
2. モノづくり力の強化
3. 新規事業の立ち上げ

#### 基盤強化



1. 人的資本の拡充
2. デジタル経営基盤の確立
3. サステナビリティ経営の実践

### 成長戦略 ①エリア別戦略 日本市場

コーポレートブランドである『デサント』に集中してDTCを拡大

#### 目指す姿



- ✓ 「デサントストア」中型店（40～50坪）店舗での成功モデルの確立
- ✓ 1店舗当たりの売上増加による収益性向上
- ✓ 店舗数増加による規模拡大

日本における『デサント』ブランドDTC構成比目標

FY2023

48.8%



FY2026

80.0%

#### 施策



- ・ DTC構成比率の向上による、さらなる消費者ニーズの獲得
- ・ 定着した正価販売による量的拡大
- ・ 水沢ダウンに次ぐ、大型商材の開発(シェルジャケット等)

## (2) 企業集団の対処すべき課題

DESCENTE

### 成長戦略 ①エリア別戦略 韓国市場

ブランド価値向上・リブランディングによる積極策への転換

目指す姿



✓ コロナ前水準同等の売上高700億円

#### ・ 成長ブランドへの投資



：最大規模の旗艦店を江南に開店（24年3月）



：ブランド初の旗艦店出店予定（25年4月）

#### ・ リブランディングの推進



le coq sportif

：スポーツのエビデンスを基軸にした商品企画・マーケティングを実施し、差別化された多ブランド戦略を実行



Munsingwear

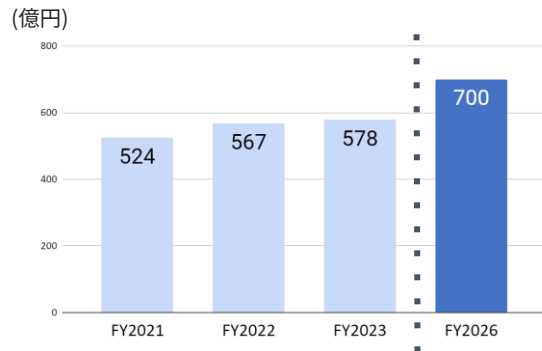
#### ・ シューズの強化

研究開発拠点『DISC BUSAN』において商品開発を強化し、展開アイテムの拡充を図る

#### ・ EC比率の向上

自社モール比率を高め収益性の向上を図り、FY2026にEC売上比率17%を目指す

DESCENTE KOREA LTD. 売上高推移イメージ



施策



## (2) 企業集団の対処すべき課題

DESCENTE

### 成長戦略 ①エリア別戦略 中国市場

成長ドライバー『デサント』+連結子会社3ブランド展開による規模拡大

目指す姿



- ✓ 『デサント』：拡大基調維持
- ✓ 『ルコックスポルティフ』、『アリーナ』：リブランディング効果刈り取り
- ✓ 『マンシングウェア』：リブランディング実行

施策



- ・ 新規展開のキッズ、ゴルフの展開拡大によりFY2024店舗数目標220店超（+40店）
- ・ 日韓中での商品連携の強化



- ・ 新たなブランドイメージ浸透により増収増益



- ・ 日本企画商品販売にフォーカスし、アメリカンゴルフブランドイメージ構築

## (2) 企業集団の対処すべき課題

DESCENTE

### 成長戦略 ②モノづくり力の強化

競争力の源泉であるアパレル開発をさらに磨きあげ、シューズ、アクセサリーへ繋げる

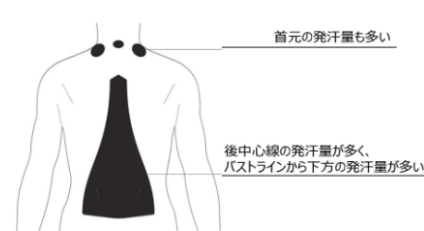


**アパレル領域の開発強化**  
ブランド間での機能・ナレッジ共有による開発



**シューズ・アクセサリーへの横展開**  
アパレル開発で培った縫製技術・ノウハウを転用

- ユーザーの課題解決に繋がる商品の拡充
- アパレルのイメージにリンクした商品開発
- DISC OSAKA(アパレル研究開発拠点)のノウハウを活用した商品



商品例：背中の汗のかきやすさを分析し、バックパックの背面パネルを開発

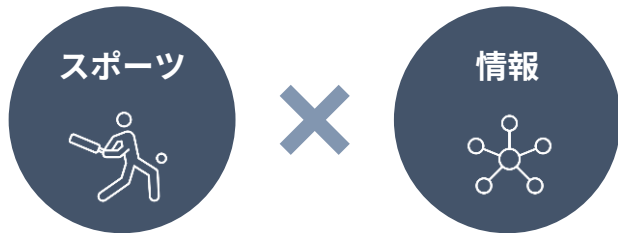
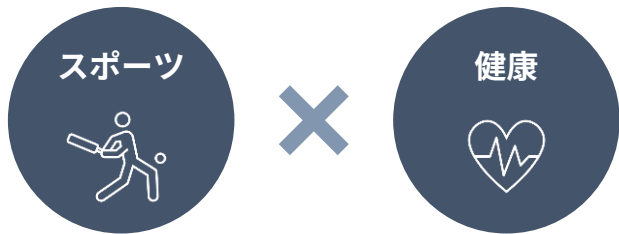
## (2) 企業集団の対処すべき課題

DESCENTE

### 成長戦略 ③新規事業立ち上げ

「ウェルネス事業」への参画

「サービス事業」への参画



#### 新ブランド —KOUNOE—

「人間は生まれつき骨盤の開き方に左右差がある」ことに基づき、猫背型の“うで体”と反り腰型の“あし体”に分類した鴻江理論※を応用した商品を展開



#### スポーツプラットフォーム構想

- ・オンライン上で“気軽にスポーツできる場”を提供
- ・スポーツへの関心がある層との接点を増やす

※鴻江理論：上野由岐子選手(ソフトボール)、千賀滉大選手(野球)、天本ハルカ(ゴルフ)らを指導し、東京オリンピックソフトボール日本代表チームトレーナーを務めた鴻江寿治氏が提唱する独自理論

## (2) 企業集団の対処すべき課題

DESCENTE

### 基盤強化

#### ① 人的資本の拡充

スローガン(求める人物像)  
プロとしてのこだわりを持ち、  
競い合い、やりがいを目指す人

##### 行動指針

1. 既成概念を打破し利益を創出する
2. 顧客の期待を超える創造をする
3. 諦めずに協走してやり遂げる



専門性の高い人材の育成と  
キャリアオーナーシップ推進  
による人員の最適な配置の実現

#### ② DX基盤の確立

現代のデジタルニーズに対応し、  
向こう30年を見据えた次世代型  
デジタル経営基盤を確立

##### デサントジャパン

ERPプロジェクト  
を推進

##### デサントコリア

ERP/ECモールの  
構築等、次世代プ  
ロジェクトの推進



省力化、取引の高度化に寄与



#### ③ サステナビリティ経営の実践

1

持続可能なモノ・  
仕組み作りへの「挑戦」

2

新たな価値「創造」

3

「誠実」な組織と仕組み、従業員

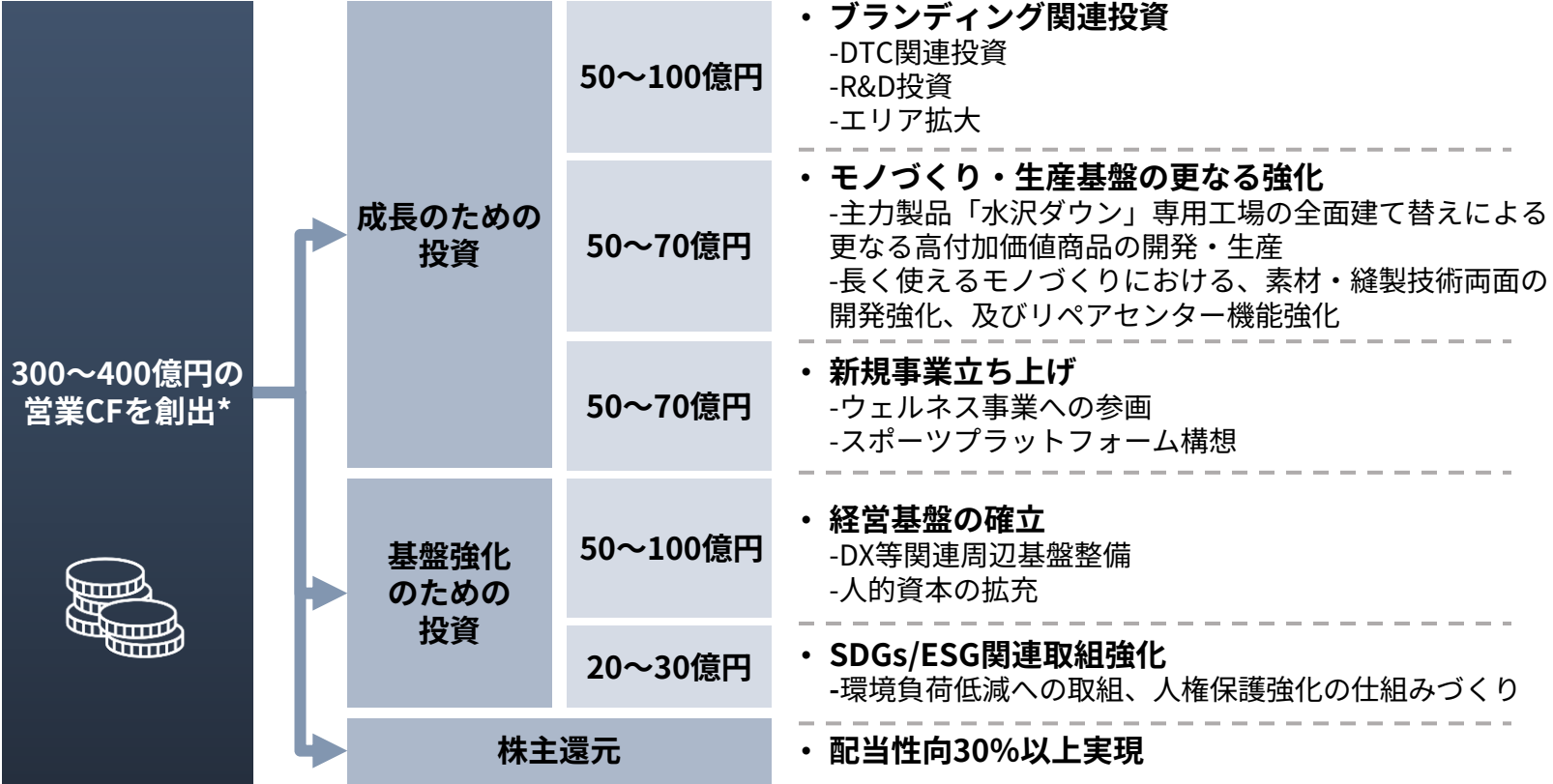
4

地域・社会との「調和」



## (2) 企業集団の対処すべき課題

### キャッシュアロケーション



\*新中期経営計画期間中の営業キャッシュフロー

## (2) 企業集団の対処すべき課題

DESCENTE

FY2024の配当は過去最高を更新  
中計期間中では安定的にROE11~12%の高水準を維持

| (百万円)                   | FY2021 | FY2022 | FY2023 | FY2024計画 |
|-------------------------|--------|--------|--------|----------|
| 年間配当額                   | 1,886  | 3,020  | 3,625  | 3,776    |
| 1株当たり                   | 25.0円  | 40.0円  | 48.0円  | 50.0円    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益（連結） | 6,229  | 10,550 | 12,014 | 12,500   |
| 配当性向                    | 30.3%  | 28.6%  | 30.2%  | 30.2%    |

|       | FY2021 | FY2022 | FY2023 | ... | FY2026(計画) |
|-------|--------|--------|--------|-----|------------|
| ROE推移 | 7.6%   | 11.3%  | 11.3%  |     | 11%~12%    |

## 報告事項 2

会計監査人及び監査役会の  
第67期連結計算書類監査結果報告の件

(招集ご通知 48頁～52頁参照)

# 決議事項

# 決議事項① 剰余金処分の件

---

## ①配当財産の種類

金銭

## ②配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式 1 株につき金48円

総額 3,625,699,008円

## ③剰余金の配当が効力を生じる日

2024年6月14日

(招集ご通知 6頁参照)

## 取締役候補者の氏名

|     |     |
|-----|-----|
| 小 関 | 秀 一 |
| 諸 藤 | 雅 浩 |
| 清 水 | 源 也 |
| 嶋 田 | 剛   |
| 笠 原 | 安 代 |
| 吉 岡 | 浩 一 |
| 滝 澤 | 美 帆 |

(招集ご通知 7頁～14頁)

## 監査役候補者の氏名

松 本 章  
柿 田 徳 宏

(招集ご通知 15頁～17頁参照)

当社の監査役の報酬額は、2006年6月21日開催の第49回定時株主総会において、「年額40百万円以内」として承認いただき現在に至っておりますが、前回の改定から年数が経ち、その間に監査役の担う職務の多様化、それに伴う責任の増大等があったことから、これを改定することとし、これまでの経済情勢の変化その他諸般の事情を勘案致しまして、監査役の報酬額を「年額50百万円以内」に改定することをお願いするものであります。

なお、現時点における監査役の員数は3名(内社外監査役2名)であり、第3号議案が原案通り承認可決された後も員数に変更はありません。

(招集ご通知 19頁参照)



# 質疑応答

- 挙手をお願いいたします。
- 指名をお受けになられた株主様は  
「受付票の番号」と「お名前」を  
お願いいたします。

# 決議事項① 剰余金処分の件

---

## ①配当財産の種類

金銭

## ②配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式 1 株につき金48円

総額 3,625,699,008円

## ③剰余金の配当が効力を生じる日

2024年6月14日

(招集ご通知 6頁参照)

## 取締役候補者の氏名

|     |     |
|-----|-----|
| 小 関 | 秀 一 |
| 諸 藤 | 雅 浩 |
| 清 水 | 源 也 |
| 嶋 田 | 剛   |
| 笠 原 | 安 代 |
| 吉 岡 | 浩 一 |
| 滝 澤 | 美 帆 |

(招集ご通知 7頁～14頁)

## 監査役候補者の氏名

松 本 章  
柿 田 徳 宏

(招集ご通知 15頁～17頁参照)

当社の監査役の報酬額は、2006年6月21日開催の第49回定時株主総会において、「年額40百万円以内」として承認いただき現在に至っておりますが、前回の改定から年数が経ち、その間に監査役の担う職務の多様化、それに伴う責任の増大等があったことから、これを改定することとし、これまでの経済情勢の変化その他諸般の事情を勘案致しまして、監査役の報酬額を「年額50百万円以内」に改定することをお願いするものであります。

なお、現時点における監査役の員数は3名(内社外監査役2名)であり、第3号議案が原案通り承認可決された後も員数に変更はありません。

(招集ご通知 19頁参照)

# 第67回定時株主総会の閉会